

2020 年 4 月幹事会 企画幹事資料

【議題 6】今後の新型コロナウイルスの対応について（意見交換）

今後のイベントを開催する基準：政府からの収束宣言発出後／各企業の移動・出張制限解除

6 月例会：中止決定

8 月セミナー：5 月末に中止判断（詳細はセミナー幹事より）

9 月例会

- 中止判断のタイミング：4 月例会と同様、1 か月前（お盆休み前）に判断。各企業が移動・出張を制限している場合、中止とする。

第 43 年会（11 月）

- 中止判断のタイミング：演者多数で影響が大きい事、参加者出張手配の都合上、例会より早いタイミングでの判断が必要ではないか。8 月末～9 月初旬を提案する。
- 開催する場合：今年度はビュッフェ形式の意見交換会及び 2 次会を薬物動態談話会として準備することは控えるべきでは。

【議題 8】2020 年度 9 月例会の準備状況

開催日：2020 年 9 月 14 日（月）13:30～16:30

場所：日本薬学会長井記念ホール（東京）

講 演	演題・所属・氏名	備 考
一般講演	1) 13:30～14:15 「キメラマウスから採取した新鮮ヒト肝細胞（PXB-cells）の創薬への利用」（仮題） 株式会社フェニックスバイオ 立野（向谷） 知世 先生	済 演題 済 演者 済 ご略歴
	2) 14:15～15:00 「創薬支援インフォマティクスシステム構築の事業化に向けて」」（仮題） 株式会社富士通九州システムズ 古賀 裕美 先生	済 演題 済 演者 済 ご略歴
特別講演	15:15～16:15 「(未定)」 (未定) 先生	未 演題 未 演者 未 ご略歴
司 会	大日本住友製薬株式会社	

一般講演の 2 社は 4 月例会からのスライドを受諾いただいた。

特別講演：

一般講演の内容からキーワードとして M&S、キメラマウス、ヒト組織利用、細胞培養、
In silico 創薬、PK 予測、DDI 予測を設定し、これらに関連した研究に取り組まれている先生を調査。

候補：小林 カオル 先生（明治薬科大学 教授）

「ヒト化動物を用いた薬物動態予測」

候補：白坂 善之 先生（金沢大学大学院医薬保健学総合研究科、准教授）

「消化管水分挙動解析に基づく薬物吸収動態予測」

【議題 9】2020 年度 第 43 年会の準備状況

開催日：2019 年 11 月 19 日(木)～20 日(金)

場所：オークラアクトシティホテル浜松（浜松）

＜本日まで討議頂きたい内容＞

- 各シンポジウムの演者／演題候補について
- 大枠のタイムスケジュールについて

＜年会のメインテーマ及びシンポジウムタイトル：1 月幹事会で共有済み＞

メインテーマ：障壁に挑む薬物動態研究

シンポジウム 1. 深化する薬物動態制御技術（仮）

シンポジウム 2. 新技術で切り拓く創薬研究の近未来（仮）

＜第 43 年会組織委員＞

シンポジウム 1

大槻 純男 先生：熊本大

楠原 洋之 先生：東京大

平林 英樹 先生：武田薬品工業

久米 俊行 常任幹事

佐藤 正延 常任幹事

シンポジウム 2

水口 裕之 先生：大阪大学／医薬基盤研

小森 高文 先生：エーザイ

長坂 泰久 先生：アステラス製薬

久米 俊行 常任幹事

佐藤 正延 常任幹事

<第 43 年会組織委員会シンポジウム別 電話会議>

以下の日時にて、シンポジウム毎に組織委員会（電話会議）を開催し、演者／演題候補の選定を行った。

日時：シンポジウム 1 2020 年 3 月 23 日（月）13:00-14:00

シンポジウム 2 2020 年 3 月 31 日（火）17:00-18:00

<演者／演題候補の 1 次案>

お名前に○がある演者はご内諾をいただいています（4/15 現在）

特別講演候補：

- ○村松 慎一 先生（自治医大）：AAV ウィルスを用いた中枢遺伝子デリバリー（次点）
- 川上 浩司 先生（京大）：リアルワールドデータの創薬研究への利用（仮）

シンポジウム 1：深化する薬物動態制御技術

- ○伊藤 慎吾先生（熊本大）：BBB 透過ペプチドの開発
- JCR ファーマ：J brain cargo について
- ペプチドリーム：脳移行性を向上させるカーゴペプチドを用いたペプチド薬物複合体の開発
- 秋田 英万 先生（千葉大）：リンパ管分布制御、DNA/RNA ワクチン
- ○井川 智之 先生（中外製薬）：抗体の血中半減期制御（演者は社内で調整中）

（次点）

- ブレイゾンセラピューティクス：グルコース反応性 BBB 透過型ナノマシン
- aceRNA Technologies：RNA Switch Technology による組織/細胞ターゲティング
- 丸山 徹 先生（熊大）：アルブミンを利用した血中滞留性制御

<シンポジウム 2：新技術で切り拓く創薬研究の近未来>

- ○水口 裕之 先生（大阪大）：ヒト iPS 細胞由来肝・小腸細胞の創薬応用
- ○加藤 将夫 先生（金沢大）：Gut-liver MPS モデルを用いた生物学的薬物速度論的解析
- アステラス製薬：MPS 検討（講演可否を社内で検討中）
- 渡邊 玲子 先生（医薬基盤・健康・栄養研）：In silico 薬物動態予測システムの構築
- 日比野 浩 先生（新潟大）：針状ダイヤモンド微小電極による生体内薬物センシングシステムの創出

（次点）

- 伊藤 涼 先生（小野薬品）：ヒト BBB-MPS モデル解析
- mimetas 社：organ on a chip
- 渡慶次 学 先生（北大）：ポイントオブケア検査を可能にするマイクロ流体デバイスの開発

<タイムスケジュール案>

(1 日目)

開始案	終了案	所要時間 (分)	プログラム
15:30	15:40	10	会長挨拶
15:40	16:40	60	特別講演
16:40	17:05	25	ウェルカムドリンク(ドリンクサーブ)
17:05	17:10	5	ショーケース:趣旨説明
17:10	17:40	30	ショーケース 1(杉山会長とシンポ 1 演者:各演者 3-5 分)
17:40	18:05	25	ショーケース 2(シンポ 2 演者:各演者 3-5 分)
18:05	18:25	20	展示ブースの紹介プレゼンテーション
18:25	18:30	5	事務連絡
18:30	18:40	10	移動
18:40	20:30	110	意見交換会
20:30	22:00	90	二次会

(2 日目)

開始案	終了案	所要時間 (分)	プログラム
8:30	9:10	40	会長講演
<u>シンポジウム 1(仮題「深化する薬物動態制御技術」)</u>			
9:10	9:50	40	基調講演
9:50	10:20	30	講演①
10:20	10:50	30	講演②
10:50	11:10	20	コーヒーブレイク
11:10	11:50	40	講演②
11:50	12:20	30	講演③
12:20	13:10	50	昼食
<u>シンポジウム 2(仮題「新技術で切り拓く創薬研究の近未来」)</u>			
13:10	13:50	40	基調講演
13:50	14:30	40	講演①
14:30	14:50	20	コーヒーブレイク
14:50	15:20	30	講演②
15:20	16:00	40	講演③
16:00	16:40	40	講演④
16:40	16:45	5	事務連絡

(参考) 発表時間を特別講演 60 分、会長講演・基調講演・一般講演(アカデミア) 40 分、一般講演(企業) 30 分に設定。会長講演を例年の昼食後ではなく、2 日目のスタートに変更。

【報告事項】担当幹事追加

企画幹事を 1 名追加します。

夏谷 格(なつたに いたる)(大日本住友製薬株式会社)

以上